



2026 年 9 月

アラウコ社日本代理店
サカキバラコーポレーション

チリラジャータパインの現状と今後の見通し

1. チリ社会

日本同様に南米チリでも異常気象は続いており、8月の天候は7月同様に北部、中部を中心に豪雨被害が発生して、2万人以上の住民家屋に被害が出ています。

今月から冬の雨季シーズンを終えて春の乾季シーズンに向かいます。

チリ銅価格は世界的な半導体需要の増加で過去最高の 6.4-6.6 ドルまで上昇をしています。今年の GDP は年率約 1.4%ですが、世界市場の銅生産は約 23%をチリが占めており、今後の GDP 上昇に寄与するでしょう。

為替市場はドルに対して 910 ペソから 930 ペソで、先月よりペソ高ドル安傾向です。ガソリン価格が 8 月以降は下落傾向で、インフレ傾向はやや落ち着いてきています。

2. 世界市況

中近東市場は米国とイラン紛争後に初めてアラウコと CMPC の共同配船で約 3 万 m³ のバルク船が 10 月中旬頃にオマーン外港に到着予定です。ホルムズ海峡内の運航は引き続きリスクがあるため、オマーンからカタール、サウジアラビアへトラックで陸送される予定です。次回配船は 10 月か 11 月を予定しています。

中近東市場はブラジルからパイン製材が毎月 3.0-3.5 万 m³ 輸入されており、市場でチリ材と競合をしています。

韓国市場は中国への部品等の輸出が好調で、9 月配船以降も強い市況が続いています。中国から米国、中米、南米への輸出が引き続き好調です。

チリ国内で大雨が多発しており、災害復旧用に土木材等を国内市場へ供給します。大雨の影響で丸太の伐採も 7-8 月は減少をしており、工場から港へ輸送する時間も通常よりは多くかかっています。エネルギーコスト上昇は落ちつきましたが、大雨により製材コストは一時的に上昇をしています。今後もチリサプライヤーの生産数量は限られており、収益率の高い市場へ販売を強化していく方針が明確になると、日本の梱包市況は強くはないので、世界市場で競合が出来るか懸念されます。

3. 日本市場

a) 配船スケジュール

アラウコ 5 月コンテナ配船（2 番船）は 7 月中旬から 8 月下旬までに入荷しました。

7 月コンテナ配船（3 番船）は現地大雨の影響で、7 月中旬から 8 月下旬まで現地出港に時間がかかりましたので、日本入港は 9 月から 10 月までを予定しています。

現地の気候は 9 月以降に春を迎えますので雨季のシーズンは終えて乾季へ移行します。

9 月配船（4 番船）は 9 月中旬から 10 月上旬まで現地を出港して、日本入港は 11 月下旬から 12 月中旬あたりで配船スケジュールに変更はありません。

アラウコの年内最終配船は 11 月配船（5 番船）で、現地を 11 月下旬から 12 月中旬に出港して、日本へは来年 1 月下旬から 2 月下旬にかけて入港を予定しています。

来年 2027 年はコンテナ配船を今年の 5 回から 8 回に増やして、配船の間隔を 70 日間から 40-50 日間に短くする配船スケジュールに変更はありません。

CMPC は今年同様にコンテナ配船を年間 6 回予定しており、アラウコと合わせて年間 14 回のコンテナ配船スケジュールで日本市場にチリ材を安定供給する販売方針です。

b) 梱包市況

梱包需要について 8 月盆休み以降も秋需要に向けた市況は静かです。引き続き、個別案件が多く全般に梱包需要の案件は停滞をしているようです。

半導体関連の輸出梱包の需要は強く、LVL や合板の販売は好調です。

今後の米国とイラン紛争の終結期待や 11 月 3 日の米国大統領の中間選挙を控えており、世界市況が梱包市場に与える影響も見ていく必要があります。

7 月末の日米為替協調介入により、為替相場は 162-163 円から 158-160 円に円高ドル安傾向になっています。しかし、日本の消費税減税に伴う財源確保、米国 F R B が金利を年内に上げる可能性など、為替相場の円安ドル高傾向に変化はありません。

チリ現地が世界市況により今後も製材価格を値上げしてくると可能性もあり、為替相場の行方はチリ製材のコスト上昇を考えると重要な要因になりそうです。

チリ各社は 6-7 月（3 番船）のコンテナ配船でエネルギーコスト上昇分として約 3-4% 値上げを実施しました。8-9 月（4 番船）のコンテナ配船で、前回船で値上げを見送った残り約 2-3% 値上げを実施しました。現行の為替水準では約 2-3% コストダウンになりますが、現在の港頭在庫とこれから入荷する 3 番船の販売コストは今年最高になります。各社は予定通り、3 番船が入荷する 10 月以降に 2000 円-3000 円の製材価格を値上げする市況になります。

次回 10-11 月配船（5 番船）に関して、チリサプライヤーの値上げ圧力は強いですが、今年後半の配船で 2 回連続の値上げをしています。10 月以降に国内製材価格の値上げも控えており、製材価格は据え置きになる予定です。

以 上